

ハードスキルとソフトスキルの いずれも身につけてこそ、 いい仕事ができる

橘さんはフリーランスのプログラマーやITエンジニアとして、さまざまなシステムやアプリケーションの開発に携わってきました。プログラマーとして、よりよい仕事をするためには、常に学び続けることが大切だと語ります。



たちばなしゅうせい ● 1985年、山梨県生まれ。高校卒業後、コンピュータ系の専門学校に入学。専門学校卒業後、派遣会社に登録し銀行のシステム構築に従事。その後、Web系のエンジニアを目指して独立、フリーランスの道を歩む。認定スクラムマスターを取得し、さまざまなシステム開発に参加。2022年1月、フリーランスのまま、ソフトウェア開発などを業務とする株式会社mofmofのCTO（Chief Technology Officer:最高技術責任者）に就任。

プログラマー・ITエンジニア 橘 周世さん

専門学校でプログラミングに出会い、
面白さに目覚める

「プログラマーとして活躍ですが、情報技術関連の分野に関心を持つようになったきっかけを教えてください。」

橘 高校生のころ、私はゲームに夢中になっていました。だからといって、将来は情報関連の分野で仕事をしようといった明確な目標があったわけではありません。とりあえず興味があるところに進もうと、コンピュータ系の専門学校に入学したというのが正直なところでした。

その専門学校で「C言語」というプログラミング言語の授業があり、そのとき初めてプログラミングに出会いました。そのプログラム言語を使ってプロ

グラムをつくると思ったとおりにゲームが動いていく……。それはとても感動的で面白かったですね。そんなこともあって、情報技術関係の分野で仕事してみようかという思いが以前よりも強くなりました。

「専門学校を卒業後、銀行のシステム構築に携わっていらっしやいますね。橘 ええ。派遣会社に登録し、銀行の勘定系のシステム構築のプロジェクトに参加し、現場に詰めて仕事をしました。」

それはかなり大規模なプロジェクトで、その中で私はシステムエンジニアとしてシステム構築に携わりました。その仕事を7年あまり続けた後、Web系のエンジニアを目指してフリーランスとして独立しました。

「それまで携わっていらっしやった銀行の勘定系のシステム構築のお仕事とは、畑違いの分野ですね。」

橘 確かにそうですね。でも、専門学校に通っていたときにWeb上で掲示板やホームページをつくっていて、その分野の仕事には前から関心があったのです。もちろんフリーランスのエンジニアとしてやっていけるかどうか不安はありましたが……。

不安を何とか乗り越えられたのは、周囲の人たちの支えがあったからだと思います。また近くに「こういうエンジニアになりたい」と思わせてくれる人がいたことも大きかったですね。その人を目標にして、スキルを磨き、努力を重ねてきました。

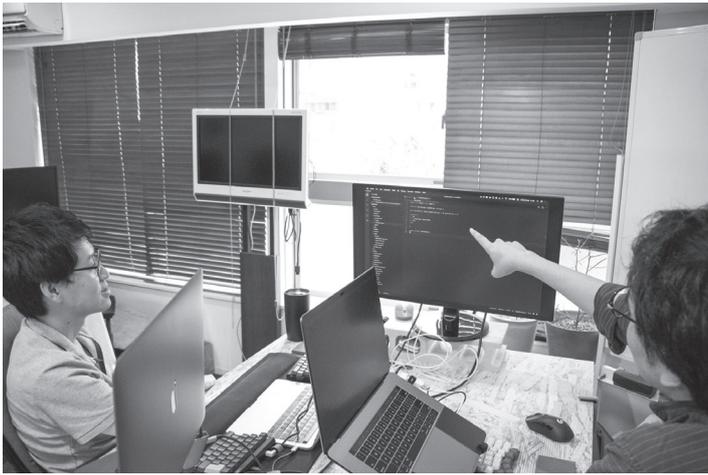
現在は、新規事業に特化したソフトウェア開発や、開発チームを構築する業務を展開している株式会社mofmofさんと提携して仕事を進めることが多いですね。私は主にWebサイトや会員制のWebサービスのシステムの開発、スマートフォンアプリの開発、スマートフォンを開発する仕事をしています。

「実際のお仕事はどのようにして進められるのですか。」

橘 近年は新型コロナウイルス感染症の影響もあって、ほとんどオンラインで仕事を進めています。オンラインでお客様と顔合わせをし、どんなご要望かを確認し、それを実現するにはどんなシステムが必要で、そのためにはどんなプログラムがよいかを考えます。

Web系システムの開発やスマートフォンアプリの開発は、銀行などで使われる大型のシステムの開発とは違い、チームも少人数で構成されることが多いのです。チームメンバー同士のやりとりもオンラインで行っています。

「ペアプログラミング」といって、2人で1つのプログラムを作成する場合があります。一方が手を動かしてプログラムのコードを書き、もう一方がそのコードを評価したり、もっとよいコードがないかを探ったりするナビゲーター的な役割を担います。こうしてプログラムを完成させますが、それが実際に稼働した後も、お客様の要望に応じて改善を重ねていきます。



難しい問題を解決するには、
日ごろから学び続けることが大切

——お仕事を進める上で、どんなことを心がけていらっしゃいますか。

橘 どのようでしたら仕事がスムーズに進むのか、ということですね。例えば、開発が当初想定していたよりも遅れがちになっている場合、「もっと早くしよう」と言うだけでは問題は解決しません。また、プログラムの作成に着手してから不明点が発生してしまうこともあります。

このような場合、プログラムの仕様を決める段階で十分に詰め切れていなかったなど、プログラムを書くコーディング作業以外に原因がある場合が多いのです。そのようなときは、お客様やチームの他のメンバーと、よりコミュニケーションを密にすることで解決を図ります。

——少数のチームで比較的短時間でソフトウェアを開発する手法の1つに「スクラム」があります。認定スクラムマスターを取得していらっしゃいますね。橘 おっしゃるように「スクラム」はチームでソフトウェアの開発を進めるときの手法の1つです。

「スクラム」にはさまざまな要素がありますが、要はチームが一体となっていくかに変化に適応し、迅速に開発を進めるかという手法で、私は以前からその内容を知っていました。それでももっと深く知りたいと思い、研修を受

けて認定スクラムマスターの資格を取りました。資格取得後はスクラムマスターとして、開発に参加することが多くなりました。

——プログラマーにはどのような資質が必要でしょうか。

橘 プログラムを作成する際には、論理的に考えることは欠かせません。またコミュニケーション力も大切です。プログラマーというと、人とあまり関わらずにコンピュータの画面に向かってコツコツやっているとイメージを持たれるかもしれませんが、お客様とコンタクトを取り、しっかりとそのご要望を把握することがとても重要です。

大型のシステム開発では、プログラマーはシステムエンジニアが作成した仕様書に従ってプログラミングすることが多いのですが、私たちのようにWeb系の仕事ではシステムエンジニアという特定の役割は存在しないことが珍しくありません。プログラマーがシステムエンジニアの役割も兼ね、お客様と直接話し合い、自分なりのシステムの設計や仕様を決め、自分でプログラムを書きます。

——お仕事の中で喜びややりがい、また、厳しさを感じるのどのようなときでしょうか。

橘 仕事を進めていくと、いろいろな問題にぶつかります。その問題が難しいほど、解決策を提案するのは勇気が要ります。でも思い切った解決策を提案し、その結果、問題が解消し、いい

方向に向けて仕事が動き出したときはとてもうれしいですし、同時にやりがいも感じます。

また、問題に直面したとき、どのような技術を選択するかを迫られることがあります。そんなときは、それぞれの技術についてしっかりとした知識を持って、正しい選択をしなければなりません。それができるためには、常に学ぶことを忘れてはいけません。それは技術についてだけではありません。プロジェクトをいかにスムーズに前に進めるかという方法を学ぶことも大切です。

プログラマーの仕事は、小さな失敗の連続だと言っても過言ではありません。失敗してもあきらめずに改善を重ね、一歩ずつ仕事を進めていくのです。そうした中で学ぶことはたくさんあります。

——「プログラマーになりたい」と考えている後輩たちへメッセージをお願いします。

橘 プログラマーは情報社会の根幹を担う職業です。これまで申し上げてきたように、プログラマーはプログラミングや技術的な専門知識といったハードスキルはもちろん、コミュニケーション力やリーダーシップなどのソフトスキルが求められます。

そうしたスキルを身につけるためにも学び続けることに楽しみを見出し、いただきたいと思っています。学び続けることができるプログラマーこそ「腕のいいプログラマー」なのです。